

アンコール遺跡 石像修復プロジェクト — バイヨン寺院ナーガ像・シンハ像

©A-JA,Inc



アンコール遺跡の一部である、アンコール・トムを中心を成す仏教寺院バイヨン。林立する四面仏顔塔は、“クメールの微笑”ともいわれる。

文:日本ユネスコ協会連盟/アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構(JST)



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

修復にあたって

日本ユネスコ協会連盟では、2012年度から、カンボジアのアンコール遺跡の一つ、バイヨン寺院の外回廊に設置されているシンハ像・ナーガ像の石像修復事業をスタートした。

日本ユネスコ協会連盟の世界遺産活動とは？
世界中の多様な文化や自然を理解することは、平和な社会への第一歩です。祖先から引き継がれてきた大切な自然や文化を、次の世代へ届けることが、今を生きる私たちの使命と考え、危機に瀕する世界遺産を守る活動を行っています。

カンボジアの世界遺産を守り、子どもたちへ伝えていけるよう、本プロジェクトでは、修復とあわせて、人材育成も行っている。バイヨン寺院の東参道、外回廊を飾るシンハ像、ナーガ像及び欄干は、過去にフランスによって修復が行われたものの、既に半世紀以上が経ち、再び破損。遺跡の周囲に散乱しているものも多い。これらの石彫像や欄干を修復・再整備することは、バイヨン寺院の景観整備の点において最重要項目の一つであると同時に、近年急激に増加しつつある観光客への安全性を確保するうえでも非常に重要である。

バイヨン寺院では、1994年から日本政府アンコール遺跡救済チーム(JASA)の修復工事・調査・研究、さらにカンボジア人の人材養成が行われてきた。本プロジェクトではJASAの技術的指導を受けながら、JST(カンボジアNGO)と連携し、修復作業を通じて、カンボジア人からカンボジア人への技術継承をすすめている。

仮組作業後、新材で補填した部分の仕上げや安定化のための微調整などを行い、修復作業の完了となる。

©JST



シンハ彫像

バイヨン寺院外回廊には、26カ所の入り口が存在するが、そのうち18の入り口の両脇にライオンの彫像があつた。当初36体あつたと考えられるが、現在確認できるものは28体のみである。ライオンは、サンスクリット語でシンハと言われ、インドにおけるアショーカ王柱の柱頭に代表されるように古代からさまざまななかたちで図像化されてきた。ライオンは古今東西、王権の象徴としてしばしば登場する動物であるが、カンボジアでも同様に王権を象徴する動物として

ナーガ像および欄干について

バイヨン寺院外回廊には、ナーガの欄干がめぐらされている。各入り口や、角の部分にはナーガとガルーダの彫像が並び、その数は98体あつたと考えられるが、現時点で確認できたものは、86体である。



本修復プロジェクトでは、カンボジア人7人のスタッフで作業を行っている。そのうち3人は、遺跡近くのリエンダイ村から雇用された青年

カンボジア人からカンボジア人へ

ラ)として、村の経済的な繁栄にとっても欠かせない大切な農業神でもある。バイヨン寺院のナーガの最大の特徴は、ガルータ(ヒンドウー教三大神の一人・ヴィシヌ神の乗る半人半鳥の聖獣)とともに登場することである。これは土着信仰(ナーガ)と外来信仰(ガルータ)を習合したもので、この時期の独特の宗教観を具現化したものである。



上は修復前のナーガ像。カンボジアの人々による、地道な作業を経て、修復が終了した(下写真)。

たちである。カンボジアでは、アンコール遺跡をはじめクメールの文化を学校で学ぶ機会がほとんどないため、自分たちの文化についてあまりよく知らない人たちが多くいるのが現状だ。リエンダイ村の青年たちは、JASAAのカンボジア人ベテラン技能員から指導を受け、日々成長している。リエンダイ村の人たちも、彼らの仕事に興味津々のようで、近い将来、彼らが村の人や、子どもたちに伝えることができるだろう。カンボジア人の手による文化の継承の実現に向けて今日も修復が進められている。

主な修復の工程

ナーガ像もしくはシンハ像の修復作業は、以下のような順序で行われている。

1. 図面と写真による記録を行う。
2. 彫像と欄干部分の解体。解体中も図面と写真による劣化状況の記録を行う。
3. ミリメートル方眼紙上に1/10縮尺で、部材5面の記録を行い、スキャンデータとして保存する。
4. 部材ごとに修復前後と修理中の状態をカメラで記録。
5. 水と柔らかいブラシを使用してクリーニングを行う。
6. 結合、接着、注入、強化、新材への部分的な置換、補填といった標準的な修復工法を適応し、修理作業を行う。
7. 仮組み作業と、再構築作業として石材を順序通りに再設置する。



「浮世絵展示会〜日本より感謝を込めて〜」に訪れたUNESCOのボコバ事務局長。

富士山を通して広がるユネスコの輪

世界中から寄せられた東日本大震災復興支援に対し、感謝を伝えることを目的に、2012年秋、UNESCOとともにパリにて『浮世絵展示会〜日本より感謝を込めて〜』を開催した。

この展示会を機に、NHKプロモーション、瀬祭(旭酒造株式会社)、写真家のテラウチマサト氏、

書家の中塚翠涛氏、ピーター・マクミラン氏などの協力により、富士山を題材にしたさまざまなコラボレーション企画が誕生。富士山の世界遺産登録へ向けた多くの力が結集した。



テラウチマサト氏の写真を使用した「瀬祭」の富士山世界遺産登録限定ラベル(販売終了)。

2013年6月には、富士山の世界遺産登録を祈念し、ハウス・テラウチ美術館(長崎県)にて凱旋展『大・富士山展』が開催され、多くの人々を魅了した。



中塚翠涛氏による富士山世界遺産記念作品。

世界遺産年報2014 No.19

発行日 2013年12月21日 第1刷発行
 発行人 野口 昇(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長)
 発行所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12F
 TEL:03-5424-1121 FAX:03-5424-1126
 編者 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
 監修者 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 世界遺産年報2014アドバイザーグループ
 (座長:西村幸夫 岡田保良、稲葉信子、矢野和之、吉田正人、米田久美子)
 編集・制作 朝日新聞出版
 (株)エイジャ
 デザイン Human Crew
 印刷所 大日本印刷

©2014 National Federation of UNESCO Associations in Japan
 ISBN 978-4-9903651-7-2

本誌は、「空」の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。
 本誌掲載の記事・写真の無断転載および複製を禁じます

アンコール遺跡石像修復プロジェクト へのご協力をお願いいたします。

日本ユネスコ協会連盟の世界遺産活動は、皆様からのご寄付により運営されています。世界遺産募金へのご協力をお願いいたします。くわしくはウェブサイトをご覧ください。

www.unesco.or.jp

口座:00120-5-614933
 加入者名:SOSアジア世界遺産



お近くの郵便局からお振り込みください。
 ※日本ユネスコ協会連盟への寄付は寄付金控除の対象となります。
 郵便振替用紙の通信欄には次の事項を必ずご記入ください。
 ●お名前 ●ご住所 ●連絡先電話番号 ●e-mailアドレス ●寄付金額および回数(一口1万円もしくは一口5万円のいずれか) ●銘板に記載する氏名をローマ字表記(大文字)でご記入ください。(一口につき1名)